

うたごえ新聞

編集 日本のおたごえ
実行委員会
発行 音楽センター
東京都新宿区
西大久保3の67
電話(35)0922
1ヶ月30円(T共)
3ヶ月90円、6ヶ月
180円、1年350円

うたごえは平和の力!
原爆を許すまじ
ふるさとの歌を、しあわせの歌を
世界の友と手をつなごう



うたごえ 南洋の南水

関先生旅券を申請

三月中旬に授賞式

関鑑子先生は五氏にたいする国際スターリン平和賞の授賞式は三月中旬、モスクワで挙行されることになり、このほど外務省に渡航のための旅券申請がなされました。日ソ交渉が難航している折柄、うたごえ運動を中心に広汎な旅券下付の要請運動をおこなってゆくことが要請されています。

音楽センターでは、積極的な旅券獲得運動の先頭にたつとともに

シヨパン協会 関先生を推薦

は、なるべく三月十日までに音楽センター芸術局創作部に到着するようお送り下さい。

三月十四日、ポーランドのシヨパン協会より、関先生を連合員に推薦する旨、理事長のピストルシキキ氏より電報が送られてきました。日本では、またたく間に知られていませんが、シヨパン協

早くもメーデー歌集

◆全国金属◆

総評加盟の全国金属労働組合では、「おれたちは金属労働者」「金属労働者」の創作の普及をめざして音楽センターと協力して早くもメーデー歌集を出版し、全組合員に配布した。

このポケット歌集には、前記の創作、労働歌はもちろんで「シヨパン

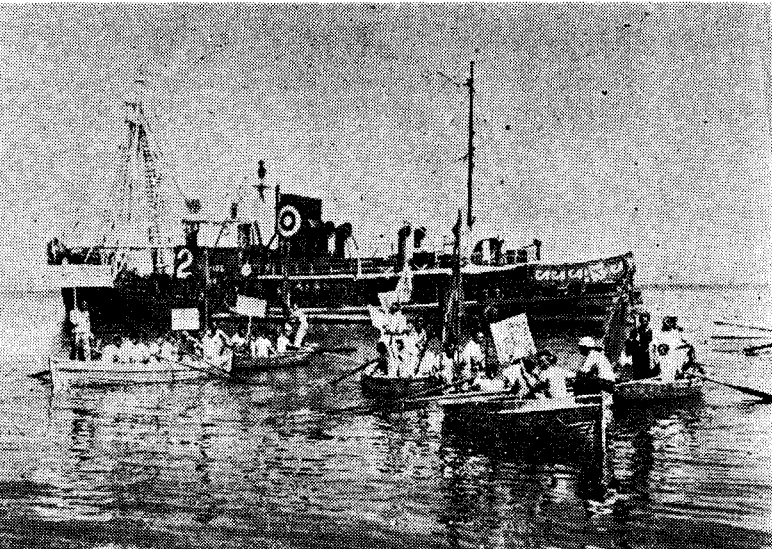
炭鉱の仲間への激励から 生れた捕鯨労働者の歌

いま、新聞でも、雑誌でも南極探検のニュースが紙面を賑わっています。また、いま南極は夏の季節で捕鯨オリンピック競争がくりひろげられています。この白氷がややく南水洋にもうたごえひびいていて、うたごえを愛する皆さんは、本心から眼をみはることで、うたごえの歌、キャッチャー・ポートの歌、うたごえの歌、自分たちで作った「捕鯨労働者の歌」をうたっているのと同じく……

△(上段の写真は南水洋の捕鯨の情景。キャッチャー・ポートと氷山の間で白い水しぶきを上げていのは長須鯨の群です)

△昨年八月のこと、北海道の東部にある漁港網走と羅臼で、前例のない漁船の十日間のストライキが実行されました。これは日本水産のキャッチャー・ポートの労働者達が賃上要求貫徹のために立ち上がったのです。(下段写真参照。アラカドをかかえて水上デモ)

△ストライキの氣勢をあげるために、めったに歌ったことのない労働歌を歌おうとなれない練習をはじめたところへ、南の創路から、ちよと皮鉄合理化法案反対闘争に立ち上っていた太平洋皮鉄労働者の宣伝隊隊十五名が応援にやってきました。そのリーダーは「俺は労働者だ」、作詞作曲で知られている太平洋合唱会の佐藤ひ



評の紹介で音楽センターに労働歌のレコードを購入に来て、はからずも創作のあせを覚えることを知り、とんとん拍子に作曲から中央合唱団のレコード吹込み実現にまで進んでしまいました。キャッチャー・ポートの上で作詞した佐藤金太郎さん(現在は執行委員)の詩に、「すみ・たく氏の作曲した「捕鯨船員組合歌」がそれです。起て捕鯨のわがともよ、スクラム組もうがっちり、団結して平和をたたきつ、暴虐の風を越えてゆく、我等は海の労働者(以下略)

△いま、南水洋で活躍している二十四隻のキャッチャー・ポートの上では音楽センターのレコードに

都教組で みんなの歌を選定

東京都教組では、良いことの歌をつくるために「冬休みの友」誌上で、小・中学校の生徒から「みんなの歌」を募集してまいりました。

この日、先生方のオーケストラや先生方の合唱団による「トロイカ」「心の唄」「七つの子」などの合唱も演奏されることになって恒夫、岩波太郎、渡辺茂、高木保

豆ニュース

○長野で うたごえ講習会
三月三、四日の両日、長野市の常照坊で、中央合唱団から指導者を招き、うたごえ講習会をひらく。

○函館でも音楽教室
北海道の函館コラス・サークル協議会では、二月二十一日から向う六ヶ月間、函館保所毎週火曜日第一期音楽教室をひらいて

○五つうたごえ創立二周年
同じく函館の国鉄五稜郭うたごえでは、三月三日、二周年を迎える市内の兄弟・先輩を招いて記念の会を催す。

○福井でめぐり一周年
福井市のめぐり合唱団は三月四日をもって一周年を迎えるので、婦人青年会館で市内外の仲間を招いて、盛大に記念祭典を催す。

○旭川で合唱サ協結成
北海道旭川市では全電通、北電、合同酒類、山びこなどの合唱団を中心に合唱サークル協議会を結成

◆おことわり◆
前号一面の「大分うたごえまつり」の記事中、青年の歌の合同演奏は、楽団の編成不能のためとあり、芥川也寸志氏は合同大会の指揮をされたというのが正確な報道です。大分から送られてきた写真とプログラムに基づいて推定記事を編集部で書いたための誤りです。深くお詫言申上げます。なお組曲「青年の歌」は翌日テープによる再生演奏が行われました。(編集部)